

鈴木ひとみ市政報告



鈴木ひとみ

ごあいさつ ウクライナから日々送られてくる映像に心が痛みます。茶の間に戦場の様子がこれほど映し出されたことはかつてありません。第2次世界大戦に突入した日本、終戦直後の日本の焼け野原の映像とウクライナの破壊された街が重なります。すべてのことが平和の上に成り立っていると改めて思いました。かの地に穏やかな日々が一日も早く戻ることを祈ります。

令和4年3月市議会定例会 一般通告質問より

備えと心構えを、市民一人一人も、行政も ～防災体制について～



昨年末、北条地区で行われた「地震・津波防災訓練」の成果と今後の方針について質問しました。地域のリーダーが自分たちで考えた避難方法を実践で確かめられたこと、関係諸団体との連携を確認できたことであり、今後他の地域にも広げて、市全体の防災体制の向上に繋げていきたいということでした。いざというとき、隣近所へ声をかけ、自分も逃げる道筋を市民一人一人が考えることが大切です。多くの地域で、防災について取り組んでほしいと思います。

ライフラインがストップした時の備えについての質問には、発電機、ガスボンベとコンロ、ペットボトル入り飲料水を3日間程度避難生活できることを目標に備蓄を進めているとの答えでした。

首都圏において大規模で広域の災害が発生した時、支援の手が届くまで、何日かかるかわかりません。個人でも、1週間生き延びられる備蓄を目指したいと思います。また、電気自動車や井戸の活用など、ライフラインが途絶えても電気と水を供給できる仕組みを作っておくべきです。

市役所庁舎が被災した場合を想定し、高台などに災害対策本部の候補地を考えて非常電源を整備しておく、職員も被災して6割しか勤務できない場合を想定して、業務継続計画を作ることも必要です。大災害が発生する可能性は年々高まっています。準備と心構えは、個人にも行政にも大切です。

写真提供協力：山本剛士氏